令和７年度

とうきょうすくわくプログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

園　　名：品川区立中延保育園

テ　ー　マ：「自然とのかかわり」

設定の理由：自然に触れて遊ぶ中で、子どもたちは全身で自然を感じ、多くのことを学んでいる。中延保育園は園庭が広いという特徴を生かし、環境を整えることで身近な自然に触れる機会を増やしている。自然物への興味や探求心を育むために、保育者の関わり方や環境・教材の工夫について学ぶことを目的とした。

対象年齢：０歳児～５歳児

活動名：【１歳児】落ち葉やどんぐり、砂を使って遊ぼう

活動のねらい

・落ち葉やどんぐり・砂に触れて、興味や関心をもつ

・好きな遊びを通して、友達と一緒に過ごすことを楽しむ

用意した環境

・お散歩バッグ、透明カップ、小さなペットボトル

・落ち葉、どんぐり、松ぼっくり

・型抜き玩具・トレー

活動内容・子どもたちの様子

・戸外で落ち葉やどんぐりを集めたり、トレーに入れて触れたりして楽しんでいた。

・透明カップにどんぐりを入れて音を鳴らしたり、小さなペットボトルにどの大きさのどんぐりが入るか試したりと、じっくりと遊ぶ姿も見られた。

・砂場では、型抜きに砂を入れてケーキを作り、「見て」「どうぞ」と保育者とやり取りしながら遊びを広げていた。

保育者の振り返りと気づき

・落ち葉やどんぐりなど、同じ自然物を見ていても、子どもによって気づく点は異なる。一人一人の気づきに丁寧に応えていくことの大切さを実感した。

・同じ遊びを繰り返す姿には意味があり、子どもはその中で様々なことを試している。子どもの行動を見守りながら言葉で代弁するなど、子どもに寄り添った関わりを続けていきたい。

活動名：【２歳児】むしさん、みつけた！

活動のねらい

・草花やダンゴムシ、アオムシなどの生き物に親しみをもつ
・発見したことを自分なりの言葉で保育者や友達に伝えようとする

用意した環境

・飼育箱、アオムシの成長カード、絵本
・アリやダンゴムシのペープサート、ダンゴムシのいる花壇
・砂場遊具（バケツ、スコップ、透明カップなど）

活動内容・子どもたちの様子

・園庭のみかんの木の葉にアオムシを見つけ、飼育を行った。
・食事や排せつの様子に気づき、指さして保育者や友達に知らせたり、サナギから蝶になる瞬間を近くで見て喜んだりしていた。
・草花を見て「アオムシさんどこかな？」と葉をめくりながら探したり、「ここにダンゴムシがいるよ」と友達を誘って一緒に土を掘ったりする姿が多く見られた。
・拾った草花を「あおむしさんのごはん」と見立て、集めてちぎり、バケツに入れて混ぜたり、砂遊びに取り入れたりと、ままごとへと発展する様子もあった。

保育者の振り返りと気づき

・絵本で親しんだアオムシを実際に飼育することで、物語の世界が“本物の体験”へとつながり、成長の過程を身近に感じることができた。
・飼育を通して、虫を「玩具ではなく生き物」として大切にする姿が育まれた（優しく触る・踏まない・強くつかまない など）。
・友達の気持ちにも気づけるようになり、「泣いているね」と伝えるだけでなく、そばに寄って頭をなでるなど、思いやりの行動へ広がっていった。

活動名：【３歳児】いろいろな形、いろいろな色

活動のねらい

- 葉の違いに気づき、不思議さや面白さを感じて遊ぶ
- 気づいたことや感じたことを、友達や保育者に言葉で伝えようとする

用意した環境

- 集めた落ち葉
- 砂場用玩具
- 透明カップ、透明ボトル
- 木製テーブル

子どもたちの様子

- 紅葉の進みに気づき、「きれいな色」と言いながら好みの葉を集め、「見て！」と友達や保育者に見せて楽しんでいた。
- 色の違いを比べたり、落ち葉を握って「パリパリする」と感触を味わったり、頭上から落としてヒラヒラ舞う様子を楽しむ姿もあった。
- 拾った葉を遊びに取り入れ、フライパンに入れて料理に見立てたり、葉の色を肉の焼き加減に見立てて BBQ ごっこをしたりして、遊びが広がっていた。

保育者の振り返りと気づき

- 自然物を使うことで保育者や友達との会話が自然に生まれ、話を聞く・共感するなど、心の育ちにもつながっていることを感じた。
- 気づいたり「面白い」と思ったりすることを繰り返し試す中で、探求心や想像力が育まれ、主体的に遊ぶ姿につながっていた。
- 保育者は遊びのきっかけをつくり、子どもの姿に合わせて環境を整え続けることの大切さをあらためて実感した。

活動名：【４歳児】落ち葉の色を作って、絵を描いたよ

活動のねらい
・混色の面白さを知り、作った色で表現することを楽しむ

用意した環境
・拾ってきた落ち葉
・画用紙（白・黒の丸、三角、正方形、長方形）
・絵の具、筆、バケツ

活動内容・子どもたちの様子
・落ち葉の中から好きな一枚を選んでよく観察し、「ここに赤があるよ」など細かな色に気づきながら、絵の具で色づくりをした。
・「これを足したらどうなる？」と試したり、偶然できた色を楽しんだりする姿があった。思った色にならず悔しさを感じる場面もあったが、できた色を大切にしながら新しい色づくりに挑戦していた。
・完成した色で絵を描く場面では、画用紙の形に合わせた表現が見られ、丸い紙には丸や点、三角や四角には線を多く描くなど、形によって描き方を工夫する様子があった。

保育者の振り返りと気づき
・葉の観察を通して、自分の思い描く色に近づけようと試行錯誤する姿が見られた。葛藤や偶然の発見も含め、過程を楽しむ大切さを改めて感じた。
・画用紙の色や形を変えることで、表現が変化することがわかり、素材の提示の仕方が子どもの創造性に影響を与えることを学んだ。
・落ち葉という身近な自然物を使うことで、室内でも多様な遊びが展開できた。一つの素材にじっくり向き合う活動を今後も取り入れていきたい。